

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2172101202		
法人名	株式会社 アイデイ・インターナショナル		
事業所名	グループホーム東町		
所在地	岐阜県大垣市東町4丁目44-1		
自己評価作成日	平成29年11月5日	評価結果市町村受理日	平成30年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani_tru&amp;sl_gvovsOd=2172101202-00&amp;PrEfOd=21&amp;Ver:si_onOd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani_tru&amp;sl_gvovsOd=2172101202-00&amp;PrEfOd=21&amp;Ver:si_onOd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年1月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の思い・家族の思いを尊重し、その人らしく生活できるように、長年行ってきた趣味や家事が継続して行えるように支援している。ボランティアの協力で俳句を作り、作品を句会に投句したり、ハーモニカを購入し、練習に励んでおられる方もみえる。また、地域の方との関わりも大切にワクワクサロンや地区センター祭りにも参加している。職員は日々の変化に気づき、病気の早期発見等、多職種で連携を図り、健康管理や生きがいを持って生活ができるよう支援している。今年の家族会は「防災について考えよう」と題して、水害時の対応も含め、防災士の方から災害について講義していただいたり、家具の固定等もして頂いた。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者のその人らしさを尊重し、一人ひとりの細かいところに気を配ったケアができるように支援している。利用者の希望が叶うように、介護計画の目標として日々の生活に取り入れ、趣味の継続・嗜好品の買い物や外出希望等に応じて利用者の笑顔が増えるようにしている。地域ボランティアとの交流が多く、事業所内で俳句・体操・論語・陶芸教室を開催し、毎月の作品を発表や掲示して生きがいや社会との繋がりにもしている。行事・園芸・研修・広報等委員会を設置し、それぞれの委員会が年間計画を立案し実践・評価・改善につなぐ意見を出す事により、業務を明確にして働きやすい職場作りにも努力している。毎月のユニット会議前と年一回は業務改善案を職員個々が意見を提案し、質の向上につながるよう前向きに取り組んでいる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの生活歴や思いを知る努力をし、その方に必要なサービスの提供をしている。コミュニケーションを大切にアットホームな環境での生活を心がけている。	やさしくわかりやすい言葉で作った理念を、ユニット毎に朝礼で唱和し、共有しながら個別のケアにつなげている。職員の笑顔は利用者の笑顔に結びつくとの考え方をもって日々の介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの様子を知っていただくため、季刊誌を回覧板で回し、地域の方にホーム内の様子等をお知らせしている。また、地域のワクワク喫茶にも参加し、交流を図っている。	寺・神社や公園への散歩時や喫茶店・買い物時にも住民と挨拶し会話している。地域のワイワイサロンや防災訓練も利用者と一緒に参加している。俳句・体操・論語・陶芸教室でボランティアとの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同事業所と連携し、近隣の保育園で認知症サポーター養成講座を実施した。幼児でも理解できるようゲームを交えながら認知症についての話をさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子やケアの取り組み等を報告し、参加者から様々は意見をいただいている。民生委員さんの紹介でワクワクサロンや地区センター祭りへも参加させていただくことが出来た。	会議で行事や日々の取り組み、事件事例等を報告し助言を得ている。利用者・家族も参加し、地域行事の紹介、地区センター祭りに利用者の作品展示や緊急時避難の提案があり、取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	6月に実施指導が入り、市町村担当者と運営やケアサービスの取り組みについて話した。指摘を受けた内容については早急に改善した。	市の担当者や地域包括支援センターと、日頃から電話やメールで連絡を取り合っている。書類提出時に、事業所の実情を伝えている。事業者連絡会等で情報交換し困難事例の話し合いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実地指導にて一時的に拘束を行う場合は、期間をまずは2週間等と定めてから行うことと指導を受けた。身体拘束について今後も検討を重ねていきたい。	事業所内で2ヶ月に1回の研修や勉強会を実施し、身体拘束はしていない。利用者へのきつい口調や言動については特に注意し、接遇にも配慮している。玄関手前のドアは施錠しているが、外に出たい時は職員が付き添い一緒に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、毎年研修を行っている。利用者への接遇には特に指導を繰り返している。また、利用者や家族からの苦情等があった時は早急に対応している。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	体重コントロールが必要な方には食事量の調整をし、水分量にも配慮している。嚥下困難な方には誤嚥性肺炎の再発防止に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に到るまでに、ホーム見学や面接を行い納得して入居していただけるよう支援している。また、改定等は書面でお知らせし、十分説明の上必要に応じて署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・ご家族へは満足度アンケートを実施し、要望を改善へと繋げている。苦情窓口は外部も含め3箇所設けている。	利用者から行きたい場所や食べ物の要望が多くあり、寺社に行ったり外食したりしている。家族には、面会時や家族会にて意見を聞いている。身だしなみや服装等についての要望があり、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で出た意見は運営会議で提案し、代表者等と検討している。1回/年は業務改善案を各自提出、ホーム全体の質の向上に努めている。	各種委員会や日々の業務内で意見を聞いたり、ユニット会議前に提案したりして、会議で話し合っている。提案内容と改善内容を表にして、職員に周知している。トイレ棚や足下灯の設置につないだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの力量に合わせて、役職や係りの担当を持ち、やりがいを持って働ける環境作りに努めている。業務改善を繰り返すことで、時間外労働をなくし安心して長く働ける職場作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、研修計画を立て、内外の研修を行っている。協力施設と共同の研修会や発表会・同事業所が行っている研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのメンバーで作るケアマネ会議や勉強会に参加し、同業者間で情報交換を行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接で本人やご家族から情報収集し、入居してからどんな暮らしがしたいかの意向をお聞きしている。安心して入居できるように何度か見学等に来ていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅で介護ができなくなった経緯や入居してからの家族の役割等をしっかりと話し、お互いが離れて暮らしても安心して生活できる環境づくりが提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態に応じて、受け入れが困難な方には、すぐにお断りせず他の事業所の情報提供や居宅ケアマネや市町村と相談する促しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりできることを見つけ、洗濯量や食器洗い・新聞折等をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には定期受診・衣類交換・気分転換の外出や面会等をお願いし、つながりが絶えないような支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同僚や地元のお仲間の方々が面会に来て、居室でお茶を飲みながら、楽しくお話されている。協力施設へ移られた方々とも行事の時などに会い、「あんた見たことあるな」と懐かしそうにお話をされている。	電話や手紙、年賀状の支援や囲碁・詩吟の大会に同行して、関係が途切れないようにしている。携帯電話の所持者には、毎日着信を確認し、折り返しかける支援をしている。家族の協力を得て自宅や墓参に行く人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状に配慮し、円滑な環境を提供でき、孤立することがないように、席の配置をしている。レクレーションや家事を一緒に行ったり、少人数での外出を企画し、コミュニケーションを図るように努めている。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力施設へ移るため退居された場合でも、行事等で行き来し交流を図っている。また、入院し退居せざる得ない場合も、協力施設と連携し、本人に一番過ごしやす場所の提供について相談・調整している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	装飾品やヘアスタイル・趣味嗜好等、ひとり一人の希望や要望にできるだけ対応し、今までの生活の継続に努めている。	利用者が言いやすいように居室でゆっくり聞き、思いを把握している。利用者アンケートを実施し、趣味の継続につないでいる。困難な人には、様々な場での動きや言葉から推測したり、家族から聞いたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活の様子をお聞きし、居室内の環境や生活習慣をその方に合わせて対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午後から本を読み俳句を作られる方、テレビをみて昼寝をされるかたと、それぞれの心身の状態に合わせて1日を過ごしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気付きは、ケア検討用紙や医療に関する用紙に記入し、それを元にユニット会議で話し合い、ケアの見直しを行っている。	利用者と家族の意見を基に、医師の意見も参考にサービス内容を具体的にし、実施しやすい介護計画を作成している。満足度も含めた評価表でユニット会議にてモニタリングし、必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア・業務の変更は申し送りノートに記載し、職員間で統一している。日々の様子は介護記録に記入し、随時、モニタリング・評価しながら介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が病院受診や行事に参加できない時は、職員が付き添い不安軽減に努めている。本人の意向を大切に家族と調整を図りながら対応している。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長年住み慣れた地域の名所や名店を訪れる事で懐かしい場所や味を楽しんでいた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の意向に沿っている。定期回診や受診から異常の早期発見・早期治療に努めている。	入居時に訪問診療が利用できる協力医に変更する人が多い。かかりつけ医を継続する人には、受診連絡表にて情報を共有し、職員が通院に付き添う場合もある。夜間帯は母体施設の看護師が協力できる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な気付きはすぐに看護師に報告し指示を仰ぎ対応している。協力施設の看護師とも連携を図っているため、夜間も安心できる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの生活に関する情報を提供し、治療が円滑に進むよう支援している。退院が決まったら病院と連携し、統一したケアができるよう職員間で情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入居時の面談で話し合いを行っている。主治医や協力施設と連携を図り、本人が安心して過ごせる場所を一緒に検討・対応している。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明している。摂取量が低下時は、医師の指示で栄養剤やゼリーを補食している。本人や家族の意向を聞き、医師とも話し合っ方向性を決めている。状態に合わせて、事業所でできる対応や支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な急変症状に対するマニュアルは作成している。近年のインフルエンザやノロウィルス感染時には経験を元に、マニュアルの見直しを行なった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は地震・火災・水害と3回行っている。家族会には防災士を招き、災害対策について一緒に学んだ。	水害・消火器訓練を夜間想定も含めて年3回避難訓練を実施している。水や食料等は隣接する母体施設で備蓄し、家具や壁画等の固定を行っている。住民の協力要請をしているが、協力が得られていない。	自治会長の協力が得られない場合でも、様々な機会を活用しての実施や働きかけの工夫が望まれる。

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室には鍵、トイレや浴室にはカーテンを設置している。ホーム便りやホームページ等の掲載写真は確認を得て使用している。排泄や病気等についても失礼のないように配慮している。	利用者の人格を尊重し失礼な言葉遣いをせず、敬語で話しかけている。病気やプライバシーに関する事は、小声で話したり場所を変えたりしている。入浴や着替え時は、掛け物やドアの開け具合を配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当を中心に、本人から思いや希望を聞き、生活に関するアンケートを取っている。毎日のお茶の時間は好みのもので飲んでいただき、外出先も本人の意向にそっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間に起きられない方は、後で温めて居室内で召し上がっていただいたり、入浴や就寝時間もその方の意向にそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、お化粧をされている方や、洋服と一緒に買いに行ったりして、おしゃれを楽しんで頂いている。白髪を気にされる方は、カットに加えカラーもしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳等を職員と一緒にを行い、食事中は食事時はテレビを消し、オルゴールやクラシックのCDをかける等、穏やかな環境づくりに努めている。	お絞り配りや盆・食卓・食器拭き等のできる事を手伝ってもらっている。ケーキ・干し柿作りやバイキングにしたり外食に行ったりしている。職員同士の話や片づけはせず、利用者と話しながら一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重コントロールが必要な方には食事量の調整をし、水分量にも配慮している。嚥下困難な方には誤嚥性肺炎の再発防止に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっているが、汚れが残る方は歯間ブラシを使用していただき、定期的に協力歯科で検診している。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し、時間で誘導やパットの交換をしている。排泄の自立に向けてできるだけ布パンツで対応するよう心がけている。	排泄チェック表を基に、その人に合わせて声かけや誘導をして自立に向けた支援をしている。パッド種類の変更や当て方の工夫をしている。紙パンツから失禁パンツ、更に布パンツへと改善できた人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便の促しのため食物繊維の多い食事を心がけ、毎日の体操も日課で行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ずつ浴槽の湯を入れ替え、温度や室温・視界等に気を付けている。入浴後は保湿剤を使用し、乾燥に配慮している。体調や気分によって随時変更して対応している。	入浴は週3回であるが、希望で毎日でも可としている。入りたくない人には、無理強いせず日時を変えて対応している。シャンプーやボディソープは好みの物を使用し、職員が1対1で会話をしながら思いを聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状態に応じて午後からベッドで休む方、居室で1人静かに過ごす方がみえる。夜間は室温に応じてエアコンや電気コタツ・加湿器を使用し、安眠できる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は申し送りノートに記載し、全職員で把握している。服用後の状態確認を記録し、評価している。必要に応じて看護師や主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ハーモニカ演奏を聴き、ハーモニカを習いたいと5名の方が購入し、日々練習されている。刺し子や曼荼羅塗り絵を好んでされている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がよく、時間のある時は職員間で調整し、外出や散歩に出掛けている。詩吟や俳句の講演会や地域のイベント等に参加している。	利用者の希望で散歩・買い物・喫茶店や公園等へ職員が付き添い出かけている。中庭での日光浴・洗濯物干しや取り込みで外気に触れ気分転換も図っている。温泉・初詣・花見・百梅園・大垣祭・紅葉狩り等にドライブを兼ねて、外出できる機会を多くしている。	



グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で数千円程度を所持し、買い物時にそこから支払いをされる方もみえる。お金がない等の不安のある方には、お預かりしている金銭を確認し、安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡が取れるという安心感を持っていただくために、電話や手紙の要望があれば、すぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には季節の物を飾り、玄関や洗面所には生花を活けていただいている。入浴時はカーテンを使用し、生活感が感じられない配慮をしている。リビングからは中庭が眺められ、季節感や開放感が得られる。	玄関や居間に季節の花を利用者が生け、俳句や作品を掲示している。日に3回は換気し、加湿器の設置や濡れタオル等で適湿度に配慮している。夏期の日差しにはグリーンカーテンにて対処している。新聞や雑誌を読んだり会話したりして自由に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル椅子のほかにソファがあるため、仲の良い方同士や1人でも過ごせる環境がある。午後は居室で本を読んだり、俳句を作ったりして、ひとりの時間も大切に過ごせる環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や日用品を持ってきていただき、使い慣れたものの中で安心して過ごしていただけるようにしている。就寝時、発汗のある方は畳に布団対応している。	使い慣れたイス・机・時計やソファ等を持参してもらい、作品や写真等を飾っている。季節に合わせて室温を早めに調整し、編み物・縫い物・本読み・俳句作り等がしやすく居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほうきや雑巾を所定の場所に準備して、自身で居室やリビングを掃除できるよう環境を作っている。トイレの流すボタンにマークを付け、排泄後の洗浄をわかりやすくしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101202		
法人名	株式会社 アイデイ・インターナショナル		
事業所名	グループホーム東町		
所在地	岐阜県大垣市東町4丁目44-1		
自己評価作成日	平成29年11月5日	評価結果市町村受理日	平成30年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai&amp;1_2017_022_kani=true&amp;aj_gvovsyoCd=2172101202-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si onOd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai&amp;1_2017_022_kani=true&amp;aj_gvovsyoCd=2172101202-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si onOd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの生活歴や思いを知る努力をし、その方に必要なサービスの提供をしている。コミュニケーションを大切にアットホームな環境での生活を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム便り「こもれび」を季刊誌として回覧板で回し、事業所の様子や取り組みについて理解して頂けるようにしている。ワクワクサロンへの参加等でつながりを深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の事業所と合同で保育園での認知症サポーター養成講座を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み・事故や行事報告等を行い、参加者から地域とかかわりが持てるような取り組みについて話し合ったり、利用者・家族からも要望を聞く機会にもなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	6月の実地指導で事業所の実情や取り組みについて話す機会があり、改善項目については早急に対応させていただいた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新聞等で拘束についての掲載があり、職員間でも関心を持って対応している。毎年、研修会を行い、身体拘束について理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が少ない時間帯や疲れが溜まっている時などは特に言動に注意するよう警告している。職員や入居者から情報があればすぐに対応し、再発防止に努めている。認知症を理解し、ストレスを溜めない職場の環境づくりに努めている。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の必要性を把握し、ご家族へも感心を持っていただくような支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に到るまでに、ホーム見学や面接を行い納得して入居していただけるよう支援している。また、改定等は書面でお知らせし、十分説明の上必要に応じて署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・ご家族へは満足度アンケートを実施し、要望を改善へと繋げている。苦情窓口は外部も含め3箇所設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で出た意見は運営会議で提案し、代表者等と検討している。1回/年は業務改善案を各自提出、ホーム全体の質の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの力量に合わせて、役職や係りの担当を持ち、やりがいを持って働ける環境作りに努めている。業務改善を繰り返すことで、時間外労働をなくし安心して長く働ける職場作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足かた内部研修の時間もなかなか取れないが、協力施設と共同の研修会や発表会等で学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者とは交流をもって、勉強会や活動に関して話し合い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接で本人やご家族から情報収集し、入居してからどんな暮らしがしたいかの意向をお聞きしている。安心して入居できるように何度か見学等に来ていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅で介護ができなくなった経緯や入居してからの家族の役割等をしっかりと話し、お互いが離れて暮らしても安心して生活できる環境づくりが提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態に応じて、受け入れが困難な方には、すぐにお断りせず他の事業所の情報提供や居宅ケアマネや市町村と相談する促しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりできることを見つけ、家事(洗濯・掃除・調理)を行って頂いている。今年も干し柿と一緒に作り干すことができた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には定期受診・衣類交換・気分転換の外出や面会等をお願いしている。家族とのつながりを絶やさないように行事にも積極的に参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の友人や仕事仲間等が面会にみえたり、喫茶店に出かけたりしている。地元の敬老会にも毎年参加されている方もみえる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態に合わせて、席の配置を決め、すべての方が孤立しないような支援をしている。レクリエーションや家事を一緒に行ったり、少人数での外出を企画し、コミュニケーションを図るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力施設へ移られるため退居された場合でも、行き来して交流を図っている。また、入院し退居せざる得ない場合も、協力施設と連携し本人に一番過ごしやすい場所の提供について相談・調整している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントで希望や意向をお聞きし、できるだけ対応できないかユニットで検討している。寒くなるとそれぞれであんかや電気毛・加湿器等で使用していただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活の様子をお聞きし、居室内の環境や生活習慣をその方に合わせて対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午後から本を読み俳句を作られる方、テレビをみて昼寝をされるかたと、それぞれの心身の状態に合わせて1日を過ごしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気付きは、早急にリーダーを中心に対応し、検討用紙に記入し、それを元にユニット会議で話し合い、ケアの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア・業務の変更は申し送りノートに記載し、職員間で統一している。日々の様子は介護記録に記入し、随時、モニタリング・評価しながら介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が病院受診や行事に参加できない時は、職員が付き添い不安軽減に努めている。本人の意向を大切に家族と調整を図りながら対応している。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長年住み慣れた地域の名所や名店を訪れる事で懐かしい場所や味を楽しんでいた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の意向に沿っている。定期回診や受診から異常の早期発見・早期治療に努め、受診時は症状を記した書面を渡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な気付きはすぐに看護師に報告し支持を仰ぎ対応している。協力施設の看護師とも連携を図っているため、夜間も安心できる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの生活に関する情報を提供し、治療が円滑に進むよう支援している。退院が決まったら病院と連携し、統一したケアができるよう職員間で情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入居時の面談で話し合いを行っている。主治医や協力施設と連携を図り、本人が安心して過ごせる場所を一緒に検討・対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な急変症状に対するマニュアルは作成している。近年のインフルエンザやノロウィルス感染時には経験を元に、マニュアルの見直しを行なった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は水害に関して、どう対応するかマニュアル作りや防災士からの指導も受けた。家具や絵画等の固定も行った。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な言動は性質や生活歴・認知症等からくるものだと理解し、私たちと同じ思いや意向があることを把握している。本人や家族の思いを受け入れ、ケアに取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当中心に、本人から思いや希望を聞き、アンケートとる事もある。毎日のお茶の時間は好みのものを選んでいただき、外出先も本人の意向にそっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間に起きられない方は、後で温めて居室内で召し上がっていただいたり、入浴や就寝時間も意向にそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を伸ばしたい方には、就寝時にネットをかぶって頂いたり、カチューシャや編み込みをして身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。白髪を気にされる方は、カットに加えカラーもしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気分転換や楽しみを持つため、外食を計画したり、バイキングで自分の好みの物を食べる機会を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重コントロールが必要な方には食事量の調整をし、水分量にも配慮している。嚥下困難な方にはソフト食を提供し誤嚥性肺炎の防止に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行なっているが、歯磨き粉を飲み込んでしまう方はブラッシングや歯間ブラシを使用している。痛みや虫歯がある場合は、協力施設にある歯科施設で健診を行っている。		



グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し、時間で誘導やパットの交換をしている。排泄の自立に向けてできるだけ布パンツで対応するよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便の促しのため食物繊維の多い食事を心がけ、毎日の体操も日課で行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	共同生活から基本の仕組みはあるが、その日の体調や気分で時間や日にちの変更をしている。冷え性の方には手足浴も行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状態に応じて午後からベッドで休む方、居室で1人静かに過ごす方が見える。夜間は室温に応じてエアコンや電気コタツ・加湿器を使用し、安眠できる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後の状態把握に努め、看護師や主治医と連携のうえ服薬調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて家事やレクリエーションができるような環境づくりを居室担当が行なっている。楽器や本・CD等気分転換の用品も自宅から持ってきて使用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がよく、時間のある時は職員間で調整し、外出や散歩に出掛けている。地域の行事や講演会等にも参加して頂いている。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で数千円程度を所持し、買い物時にそこから支払いをされる方もみえる。お金がない等の不安のある方には、お預かりしている金銭を確認し、安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡が取れるという安心感を持っていただくために、電話や手紙の要望があれば、すぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の時はテレビを消し、オルゴールやクラシックのCDをかける等、穏やかな環境づくりに努めている。リビングからは中庭が眺められ、季節感や開放感が得られる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル椅子のほかにソファがあるため、仲の良い方同士や1人でも過ごせる環境がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や日用品を持ってきていただき、使い慣れたものの中で安心して過ごしていただけるようにしている。テレビやラジオ等も本人の意向にそって使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほうきや雑巾を所定の場所に準備して、自身で居室やリビングを掃除できるような環境を作っている。トイレの流すボタンにマークを付け、排泄後の洗浄をわかりやすくしている。		